

- ①初刊にあたり
- ②科研費獲得支援事業
- ③研究分析ツール紹介

研究をおもしろく、
わかりやすく！

2020年8月6日

発行：研究・イノベーション推進機構

<https://www.innovation.hirosaki-u.ac.jp/>

初刊にあたり

研究・イノベーション推進機構長
弘前大学理事(研究担当)・副学長
若林孝一

研究には種々の面があり、個々の興味に根付いた研究もあれば、達成目標の明確なプロジェクト型の研究もあります。研究は難しいほどおもしろいという意見もありますが、人に伝えてゆくためには「研究をおもしろく、わかりやすく」をテーマに掲げたいと思います。このたび刊行することになった「かわらばん(弘大研究ニュース)」では、研究にまつわる様々な情報をわかりやすくお伝えしてゆきます。研究の合間に目を通していただければ幸いです。

科研費獲得支援事業(大型種目チャレンジ型)

科研費
KAKENHI

弘前大学では、基盤研究(B)相当以上の大型種目の採択を目指し、令和3年度科学研究費助成事業(令和2年9月公募)へ申請し、不採択となった研究課題に対して、研究費の一部を支援します。

令和3年度公募における主な変更点

- 審査結果がA評価の研究課題に対する支援額の上限を、以下のとおり大幅に増額しました。

基盤研究(S)相当の研究種目：2,000千円 → **8,000千円**

基盤研究(A)相当の研究種目：1,500千円 → **3,000千円**

基盤研究(B)相当の研究種目：**1,000千円**

- 令和3年度において研究代表者として採択されている科研費課題がある申請者についても、「支援額」に規定する1/2の額を新たに支援します。

詳細はこちら↓

<http://www.innovation.hirosaki-u.ac.jp/gakunai/kakensien>

令和2年9月頃、学内通知の予定です。大型種目へ、ぜひチャレンジしてください！



「研究力」って何？自分の強み、把握したくありませんか？

クラリベイト社の研究分析ツールINCITES BENCHMARKING(インサイツベンチマーキング)を学内限定で利用できます。

みなさんは「大学ランキング」という言葉を耳にしたことがありますか？これは教育の充実や成果の度合いを総合しランク付けしたもので、昨今、国内外のメディアで報じられることが多くなっています。このようなランキングに象徴されるように、**研究力の定量化が一般化されつつあります**。また国が制定する「第5期科学技術基本計画(H28-32)」では、「総論文数増加、総論文のうちトップ10%論文数割合の増加(10%へ)」という目標が謳われており、**研究にたずさわる人間は、今後「研究力の定量化」を意識せざるを得ない状況にあります**。

自分の研究力はいったいどの位置にあるのか?!

気になる方は、今すぐこちらをクリック! ↓

InCites Benchmarking: [研究分析ツール](#)

次号以降、詳しい使い方を解説します。

